

西都原考古博物館第2期中期運営ビジョン【令和5年度評価表】

資料5

○評価数値は4段階評価

〈内部評価〉 個別評価 4…目標を大きく上回った 3…目標を達成できた 2…目標をやや下回った 1…目標を大きく下回った
 総合評価 個別評価の平均値(小数点第2位以下四捨五入)

〈外部評価〉 4…期待以上できた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要
 上記による各委員評価の平均値(小数点第2位以下四捨五入)

(1)調査研究

項目	内部評価				外部評価	
	評価指標	目標値	実績値・事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評価意見
調査研究	論文等の執筆・研究発表等を行ったか。	各学芸普及担当職員年1回以上	各職員が1本以上、論文等の執筆を行った。様々な媒体を活用して研究成果の公表に努める。	3	3	・調査研究の内容が多岐である。古墳調査の成果・価値・保存管理など館としての目的達成のためのものもあるが、考古学以外の分野との交流研究もあり、意欲的な研究がなされていると感ずる。 ・国内及びアジアの視点から、本県の古代文化及び古墳の価値をみるという交流研究は重要である。共通の課題も多く、発展的なものになることが期待される。さらに研究活動が進められるよう、予算への配慮も願いたい。 ・研究紀要は、2024.8.10.現在19号(2023年3月)のみ博物館のホームページで閲覧できるが、20号についても速やかに公開をお願いしたい。可能であれば、その他の論文や報告書等もHPで閲覧できるとよい。 ・各職員の執筆研究発表を実施他、目標の調査研究ならびに報告を実施していることは大きく評価します。国内外の研究者と交流し、最新の研究動向の把握を務めるとの事、日本を代表する古墳地域として今後も発展をお願いします。 ・しっかりと調査研究を進め、着実に成果を公表されていることは良かった。 ・日々の多忙な業務の中、調査研究を全職員がしっかりと進められていることに敬意を表します。すでに検討済みかもしれませんが、総合博物館と同様に、J-STAGEを使用したオンライン公開を進めていただくと良いかと思えます(図録や発掘調査報告書なども可能な範囲でご検討ください)。 ・学芸員諸氏は、日常的な業務に加えて、各種の調査・研究が行われていることに敬意を表する。
	西都原古墳群の全容を理解するための調査、研究を行ったか。	—	過去6年間に実施した発掘調査の報告書を作成し、「特別史跡西都原古墳群発掘調査報告書第16集」(2024年3月)として刊行した。	3		
	地中レーダー探査によって、西都原古墳群をはじめとする県内古墳、遺跡の究明を行ったか。	—	西都原古墳群鷺田支群を対象に探査を行った(探査面積2339.5㎡)。探査の結果、210号墳は直径23~24mの円墳であること、212号墳の後円部直径が25m程であることが明らかとなった。	3		
	調査研究の成果を展示等に反映させ、史跡の保存整備に活かすなど、あらゆる機会を捉えて公開したか。また、研究紀要、図録や報告書等で調査研究の成果を公開したか。	—	共同研究を実施している「水田稲作比較技術研究プロジェクト」の実験成果等について国際交流展やポスター展で紹介した。また研究紀要1冊、図録2冊、発掘調査報告書1冊を刊行し、調査研究成果の公開に努めた。	3		
	国内外の研究者と交流し、最新の研究動向の把握に努めたか。	—	新北市立十三行博物館で行われた「2023新北市国際考古フォーラム」や「2023新北市考古生活フェスティバル」に職員2名が参加した。12月には、同館から館長他2名の職員を招聘し、協定の5年間の延長を締結した。国内では、「古代歴史文化協議会」の共同研究や「水田稲作比較技術研究プロジェクト」の実験プログラムに参加・協力を行った。	3		

(2)資料収集と保存活用

項目	内部評価				外部評価	
	評価指標	目標値	実績値・事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評価意見
資料収集 保存活用	鉄製品保存処理件数	年50件以上	56点(館内53点、外部委託3点)の保存処理を実施した。市町村等からの要望に応じて県内出土の金属製品等の保存処理を行った。	3	3	・調査・保存・整備のデータ分析は地味で、息の長い仕事である。未来への遺産づくりの貴重な仕事であると敬意を表している。頑張っていたきたい。 ・収集保存活動は、困難かつ重要な業務と理解します。県内の市町村の指導的立場であることも含め、目標を実施していることは高く評価します。調査研究や教育普及等との関連で、収集、整理、修復様々の技術革新を今後もお願いします。 ・形式的なことではあるが、『年報』運営ビジョン8ページに(2)資料収集と保存活用とあげているのであるから、事業報告19ページのタイトルも、2資料収集ではなく、2資料収集と保存活用 に統一したほうがよいと思う。 ・図書収集が、ほとんど寄贈に依っているようである。西都原考古博の調査研究の進展を考えると、もう少し購入予算を確保されることを願う。 ・すべての項目において目標値はクリアできており、引き続きしっかりと進めていただく事をお願いしたいです。デジタル化について、これらのデータはどのように保管されているのでしょうか？デジタル化されたあとのバックアップが二重・三重になされているのが気になりました。
	(図書、写真等)収集、分類・登録件数	年1,000件以上	705冊の図書資料を収集したほか、444件について写真資料(フィルム)のデジタルデータ化を行った。	3		
	古人骨を適切に収蔵管理し、データの追加や更新を行ったか。	—	収蔵人骨の点検や補修、クリーニング作業を行ったほか、獣骨等の整理も進めている。	3		
	土器、石器について、適切に保管し、活用の幅を広げるために分類と修復を行ったか。	—	保存整備事業により発掘調査された資料や、考古博物館建設に伴い発掘された丸山遺跡の整理作業を行った。	3		

(3)展示

項目	内部評価				外部評価		
	評価指標	目標値	実績値・事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評価意見	
入館者数	入館者数	年12万人 (本館、古代生活体験館)	68,122人(本館58,536人+古代生活体験館9,586人) 新型コロナ感染拡大の影響がようやく落ち着いてきたが、令和4年度と比較すると約5,000人増に止まっている。引き続き広報等に取り組んでいく必要がある。	1	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は西都原考古博物館に来館できませんでしたので評価はできませんが、古墳群の花の時期以外の期間にも来館者を増やす工夫が欲しい。 ・特別展等の入館者が4万5千人で前年度より増加していることは、テーマや質の高さが伺え評価できるが、入館者目標12万人と比較すると大きく下回っている。世代別入館者数や他県の展示テーマ等を分析し、求められている考古博物館ならではの展示内容にしていき、新たな入館者を開拓して欲しい。その時代のトピックや人々の生活などが情景として体感でき、わくわく感をかき立てる仕掛けもお願いしたい。 	3.2
展示	特別展、国際交流展等実施回数	年3回以上	4回実施。特別展、国際交流展、企画展2回の期間中の入館者数は45,233人で前年比5%増であった。	4		<ul style="list-style-type: none"> ・入館者が目標値に達していないため西都原地域のイベント等と連携し、スタンプラリーやおすすめの写真スポット、おすすめのコースなど、PRし、入館者が増える工夫ができると良いと思います。 ・展示については、研究史を基に本県の特徴をふまえた作品をご紹介いただき思想を巡らすことができました。国際交流展の郷土と世界のつながりを表現するための工夫は高く評価できます。 	
	特別展においては、県外資料を含めて構成し、日本列島における南九州の地域性に迫る展示を行ったか。	—	中世から近世初頭(南北朝～江戸時代初め)にかけて、県内各地に築かれた「城」をテーマに、縄張り図の研究や発掘調査の成果を展示・紹介した。	3		<ul style="list-style-type: none"> ・日向の城の展示は、本県の城のこれまでの調査研究の集大成ともいえるもので見応えがあった。多くの人々に見ていただきたい展示だった。置県140年を記念した特別展、企画展共にスケールの大きいタイトルで内容にも関心が高く、どの展示も1万人前後の観客数があった。職員の皆さんの努力を感じる。 ・講演会の企画の際には、宮崎市内の会場実施も考慮されると、さらに多くの人々に聞く機会が広がるのではないかと。 	
	国際交流展においては、韓国や台湾からの国外資料を含めて構成し、東アジアにおける南九州の位置づけを考える内容の展示を行ったか。	—	九州と台湾を中心とするアジアの農耕社会の発生をテーマとして、宮崎県の弥生時代研究史に触れながら、南九州の初期稲作遺跡の出土品を紹介した。	3		<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数は、コロナ禍の影響から回復がみられるが、今年度は開館20周年記念の年でもあり、一層広報を期待したい。ただし、アンケート結果によると、来館方法は相変わらず自家用車やレンタカーが主になっており、加えて人手不足からタクシーの利用も難しくなっているようである。博物館としても、各方面への働きかけが必要なのではないか。 	
展示	企画展においては、主に県内資料で構成し、古代日向の特徴について様々な視点で展示を行ったか。	—	企画展では、置県140年を記念し、令制日向国の誕生について西都原古墳群や日向国府・日向国分寺等からの出土品を紹介した。 開館20周年プレイベントとして、開館以来80回以上に及ぶ展示会のポスターを通して、博物館の歩みを紹介した。	3		<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数に関して、特別展、国際交流展、企画展、コレクションギャラリー展の期間中の入館者数が前年度比で5%増は評価できる。ただ、本館来館者の約92.3%が特別展、国際交流展等であり、わずか4500人しか、通常の来館がないというのは残念である。昨年度、一昨年度も同様のコメントしているが、西都原は、春夏秋冬の花が有名で、多くの観光客が訪れるので、その流れで、考古博物館に足を運んでもらえるような案内表示、環境整備、魅力発信をお願いしたい。 ・入園者数の動向は館だけが評価を負うところにはと感じます。いつも新鮮で、知的刺激を受けます。展示の取り組みが多様で興味深い。国際的で日本考古学にかかわる様々な工夫を感じます。以前、動画で見たの解説のような、小学生等に考古学のきっかけになるような展示と一般客に分かる日向神話の解説展示を合わせたコーナーをボランティア解説込みであると、古墳の博物館として底辺の広がり期待できるのではないのでしょうか。 ・入館者数の目標値が高すぎるのではないかと。 	
	コレクションギャラリー展においては、主に館蔵資料で構成し、日々の博物館業務の中から設定されるテーマに沿って情報発信を行ったか。	—	令和4年度新収蔵資料として、大正時代から昭和初期の「西都原古墳群」や「西都原古墳群に関連する遺物」などが掲載された「絵葉書」を取り上げたほか、故根井保夫氏が収集した考古資料について紹介した。	3		<ul style="list-style-type: none"> ・特別展等の展示回数について、年3回、充実した展示をされると良いと思う。常新展示での展示替えもあると思うので、回数を増やすより内容の充実にも努められることが、充実した調査研究とその成果としての展示につながるのではないかと。学芸員が疲弊・消耗されないことを願っている。 ・宮崎県置県140年記念展示を拝見した。出土品を通じて、先人たちの想いに触れることができました。 ・企画展示において、工夫を感じることができる。入館者数に大きく反映できていないにしても、地道に取り組んでいただきたい。 	
	多角的な視点で南九州を見つめ、考古学に限らず、関連する諸学問や諸分野に関する展示等を行ったか。	—	共同研究を実施している「水田稲作比較技術研究プロジェクト」の実験成果等についてポスター展で紹介した。	3		<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数が思った以上に増えなかった点は残念でした。昨年度同様に特別展等の実施回数は目標を1回上回ったものの、入館者数は5%増で期待していたほど伸びなかったという分析でしょうか？ ・地元の西都市との連携についてはいかがでしょうか？特に、交通手段はこれまでも話題にずっとなっていますが、自動車で来館できない方々を引き込むための方策について改善される見込みはあるのでしょうか？ 	

(4)教育普及

項目	内部評価				外部評価		
	評価指標	目標値	実績値・事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評価意見	評価
生涯学習の一環としての教育普及活動	講演会、講座の実施回数	年15回以上	24回実施。(内訳は講演会2回、考古学講座6回、体験・実験講座8回、考古博少年団9回)	4	3.2	<p>・古代生活体験メニューが充実しており、児童生徒が実践的に学べる機会が設けられていることは高く評価する。敷地内の自然豊かな環境を利用してテーマを設けた宝探しやかくれんぼ大会を行うなど、施設の有効活用が図られるとよいと思う。</p> <p>・講演会や講座の実施に取り組んでいただきありがとうございます。目標値を上回る実施回数は、高く評価します。オンライン配信や、学校との連携で、子どもたちに宮崎県の歴史や考古学の魅力を伝えられると、入館者増にもつながると思います。実践や体験で学べる工夫は、今後も継続をお願いしたいです。</p> <p>ボランティアスタッフへの研修会の開催は、生涯学習や考古博物館のサポーター作りにも寄与するため今後も様々な取り組みに対し、ボランティアスタッフとの協力ができると良いです。</p> <p>考古博物館での職場体験を終えた学生さんのまなび等を紹介し、子どもたちを中心に県民の理解が深まると良いです。利用促進のためだけの教育機関との連携にならないよう、子どもたちの興味関心を引き出す教育機関との連携、宮崎で生まれ育って嬉しいと思える子どもの育成にお力添えをお願いしたいです。</p> <p>・幼稚園児も楽しめるようなコーナーやイベントがあるとありがたいです。</p>	3.4
	古代生活体験メニューの充実を図り、実践的に学べる機会を提供したか。	—	土器・埴輪づくりや勾玉づくりに加え、新型コロナウイルス感染症の蔓延により中断していた石器づくり、アンギン編み、ミニ鏡作り等を再開した。	3			
	見学会や現地説明会など関連活動を実施したか。	—	特別展・国際交流展開会式後の内覧会、ボランティアスタッフ向けの研修会等を実施した。	3			
学校教育の中で博物館を活用するための支援を行ったか。	—	学校団体利用時の諸注意に加え、西都原古墳群や展示に関する概要説明、校区内の文化財の説明を行っている。 また、見湯るびなす支援学校が生徒の作品を発表する「アート・フェス」を当館で開催した。	3				
教育研究会等の各種事業を支援したか。	—	英語弁論大会や教育研究会等の会場としてホールを貸し出している。	3				
職場体験、インターンシップ、博物館実習等を積極的に受け入れたか。	—	職場体験は中学生4人、インターンシップは高校生3人、博物館実習は大学生1人を受け入れた。	3				

(5)情報発信

項目	内部評価				外部評価		
	評価指標	目標値	実績値・事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評価意見	評価
広報活動の充実	報道機関への情報提供回数	年20回以上	18回実施。目標値を下回っており、さらなる情報提供が必要である。	2	3.0	<p>・ホームページの更新やSNSでの情報発信努力を評価します。SNSを活用して、報道機関の行動につながると良いです。昨年の情報発信が、今年度の入館者増につながるよう期待しています。</p> <p>・博物館年報や、特別展の冊子等、表紙デザインも工夫しており、中身はどうしても固くなるのはしかたないが、手に取ってみたいくなるような表装がしており、素晴らしいと思う。</p> <p>・西都市公園協会が管理しているようだが、「西都原古墳群」のサイトhttps://mppf.or.jp/saito/はスッキリしていて見やすい。このサイトから、博物館へリンクは貼られているが、もっとわかりやすくタイアップできないだろうか。このサイトに、博物館のイベントや、特別展について紹介してあり良いと思った。</p> <p>・Facebook等、iさいとと連携しシェアされるなど、いい取り組みだと思う。インスタはどうでしょうか？(ミュージアムショップのページは拝見しています)。特に情報がなくても、3階からの眺望の定点観測だけでも十分な気がする。</p> <p>・チラシやポスターといった従来の工法に加え、SNSもどんどん取り入れられていることがうかがえる。継続とさらなる取組を期待する。</p> <p>・博物館のホームページに『年報』と『研究紀要』を掲載したことは、積極的な情報提供として大いに評価できる。特に『研究紀要』掲載の研究論文は世界の研究者が共有でき、大変貴重と思われる。</p>	3.4
	博物館の利用者を増やすために、様々な広報媒体を使って、館の情報発信を行ったか。	—	Facebookについては、年175回更新するなど当館の活動を発信したほか、雑誌やテレビ取材への協力を行った。	3			
	各市町村教育委員会や各社会教育施設等へ博物館の利用を働きかけたか。	—	県内各市町村教育委員会や図書館や公民館などの社会教育施設へのポスター・チラシなどの配布を行い、利用の働きかけを行った。	3			
	観光事業団体等との連携による誘客に取り組んだか。	—	県や西都市観光協会へポスター・チラシなどの配布を行ったり、このはな館での展示を行った。 大型商業施設イオン宮崎で特別展や国際交流展を紹介するポスター掲示を行った。	3			
博物館ホームページ等の充実	ホームページ更新回数	年48回以上	年間通して当館ホームページを70回更新し、「総訪問者数」は前年度より約6,000件増加した。	4			

(6)経営

項目	内部評価				外部評価	
	評価指標	目標値	実績値・事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評価意見
県民からの意見反映	アンケート収集件数	年1,200件以上	1,135件。目標数に及ばなかったが、前年比1.8倍と大幅に増加した。今後も来館者の意見聴取に努めていきたい。	2	2.9	<p>・職員の資質向上に関して、専門性の向上に関わる研修内容とともに、イベント企画運営等に関する研修等を他県の施設等に出向いて行うことも必要ではないか。</p> <p>・NPO法人への委託運営による地域の連携のみならず地域の学校やPTAとの連携もとれると良いです。入館時のみならず、幅広くアンケート募集できる工夫もお願いしたい。</p> <p>・展示室の暗さや説明の少なさ等については、単に明るくするなどでなく(安全上必要な明るさは必要だが)、無理なく入館者に博物館のコンセプトを理解してもらえるようになることよい。例えば、外から入って来て暗さに慣れるための空間(時間)をつくる、古墳の中(異界? =暗い空間)に入っていくことを期待させるような導入を工夫する、など。</p> <p>・アンケート収集件数が1135件ということで、前年度より大きく増えており評価できる。ただ、満足度の実績値が85%と、前年度より向上している。総合博物館と同様に、入館者の「やや不満」「大いに不満」という声をしっかり受け止め、展示や情報発信の工夫・改善に生かしてほしい。</p> <p>・アンケートの回答には、十分な考慮と対応をお願いします。アンケートの指摘の「暗さと順路について」は、この評価だけでなく、「危険がなければ良い」との評価もあり、利用者の多様な評価がある事と、展示作成者の思惑、展示の期間、新たな事実発見などを十分考慮して対応の決定をお願いします。</p> <p>・ボランティアガイド向けの解説スキルアップのプログラムを今後もお願いします。</p> <p>・交通手段が限られているので入館者数を増やすのが難しいと思われるが、児童や生徒が学校での校外学習で「博物館」の存在を知り、他の機会や他の人達とも再度行ってみる(見学する)という流れになればいいと思う。</p> <p>・開館して20年が経過し、施設・設備の更新が必要な箇所が増えてきていると思う。また最新技術・設備との乖離もあるのではないかと。経費が必要で大変であろうが、有意義な博物館活動のため、ぜひ尽力していただきたい。</p> <p>・会やアンケートで出された意見を真摯に受け止め、改善に努める(努めようとする)対応が見られ良い。目的なども異なるであろうが、同じ西都市に設置された都於郡歴史館とのタイアップなど面白いのではと思う。</p> <p>・アンケート収集件数は目標には及ばなかったものの、前年度から大幅に増加したことは評価に値すると思います。回答件数の増加の要因は何だったとお考えでしょうか?(職員の皆さんの働きかけ?)収集件数を増やすための取り組みとして、しっかり分析されることを願います。</p> <p>・暗さの問題は、展示コンセプトとの兼ね合いがあると思いますので、これまでも熟考されていることと思いますが、具体的に何が問題なのかは把握されているでしょうか?(暗いことで足下が見えづらいのか、展示の説明が見えづらいのか)まずはその点をきちんと明らかにした上で、ソフトとハードの対策を考えられた方がよいと思います。</p>
	アンケート回答における満足度	「満足」80%以上	85%(「大いに満足」「概ね満足」の合計)。満足と回答した割合が昨年度より増加したが、「展示室の暗さ」や「順路が不明瞭」などの指摘も見られた。	3		
	アンケート結果や博物館協議会等の意見を博物館活動や館運営に反映させているか。	—	展示室内の人感センサーによる照明を常時照明に切り替えるなど、暗さの解消に対応した。展示のコンセプト等が十分に伝わっていない部分もあることから、丁寧な説明と展示の工夫を行う必要がある。	3		
県民等との協働	地域や県民等との連携強化を図り、新たな利用者の創出につなげたか。また、ボランティアガイドと連携し、活動を支援したか。	—	館の運営支援を地域のNPO法人に委託することにより、地域との連携を図っている。ボランティアガイド向けの解説研修を定期的に行い、スキルアップに努めた。	3		
職員の資質向上	外部団体等の主催による研修等に参加したか。	—	宮崎県博物館等協議会や九州文化財保存推進連絡会議などの研修会等に参加した(オンライン方式も含む)。	3		
	館の実情や課題に応じて内部研修等を行ったか。	—	コンプライアンス関連や危機管理、人権問題についての館内研修を実施した。	3		
	研修の成果を館内の会議等で報告し、情報を共有したか。	—	参加した会議の内容をまとめ、復命することで館員への情報共有を図った。	3		
危機管理体制の強化	防災訓練、研修等の実施	年2回以上	7月と3月の2回実施した。7月には危機管理に関する館内研修に加え、救命訓練の一環として、心肺蘇生法の実技訓練を行った。3月には避難誘導訓練を行った。	3		
	危機管理マニュアルを全職員に周知し、必要に応じて改訂を行ったか。	—	年度当初に全職員に配布し、周知を行った。	3		
施設・設備の管理	施設、設備の維持改善の計画を策定しているか。また、改善が必要な箇所については、計画的に改修等を行っているか。	—	県の「営繕工事計画」に準拠し計画的に実施している。令和5年度は、エレベーター、消防設備、合併浄化槽等の修繕を実施した。	3		
その他の意見	<p>・考古博物館の素晴らしさを沢山の方に味わっていただきたいです。特に展示室までのスロープは、ワクワクと期待が高まる時間です。歴史から自分たちの生活に結び付けていく面白さを沢山の子ども達に味わって欲しいと願います。2年間にわたりお世話になり、ありがとうございました。</p> <p>・来館者の80%が自家用車という現状をみて、バスで訪れる人を増やす企画も考えることよい。多方面との連携・協議が必要になると思うが。</p> <p>・この記入用紙は、回答欄がセルに分かれていて、パソコンでの入力に適していません。パソコンで入力することも考えて、表の形式を検討していただけると幸いです。Excelが必須でなければ、Wordファイルの方が書きやすいのではないのでしょうか(総合博はWord形式でした)。</p> <p>・西都市にいらした弥勒祐徳先生の回顧展などに行くと、西都原や古墳群など、西都市の風景や神楽を数多く残されている。西都市内で展示会をされることもあるが、博物館内で展示するのもいいのではないかと感じた。ポスター展やフォトコンテストのような学術以外の展示も、館の趣旨に合うのであれば、喜ばれそう。</p>					

3.1